

◆巻 頭 言◆

新たな環境問題に関して思うこと

福岡市保健環境研究所長 中 牟 田 啓 子



平成31年4月に当研究所の所長として着任し、全国環境研協議会九州支部長を務めさせていただいております。日頃より皆様から多大なるご協力をいただき心より感謝申し上げます。

当研究所は、昭和45年10月に衛生試験所として発足し、平成9年5月に「保健環境研究所」として、ソフトバンクホークス本拠地であるドーム球場そばに新たに発足しました。平成12年10月には、清掃工場クリーンパーク臨海の中に設置された「廃棄物試験研究センター」が当研究所の所管となり、環境・保健に係る試験・検査や、廃棄物を含む行政施策を科学的側面から担うための調査・研究を実施しています。

当研究所の建物は、築20数年が経過したことから、施設の老朽化や省エネ化への対応のため、LED照明への変更や個別空調への切り替え等の大規模改修工事を数年かけて実施中です。また、平成30年6月からは、清掃工場クリーンパーク臨海で発電された電力を当研究所に送電し、経費削減を行っています。

当研究所には子供から大人まで楽しく学べる保健環境学習室「まもる一む福岡」を併設しており、環境や保健分野の展示や体験型講座などを開催しています。セアカゴケグモが話題になった際には、研究所内で飼育し生態に関する研究を行うとともに、標本を作製し、研究成果を用いた展示を行うなど、市民への注意喚起を行いました。また、夏には河川の水生生物のポスター展示を行うなど、季節の話題に応じて内容を更新しています。さらに、平成30年度からは、展示スペースを一部改修し、市民団体の活動等を紹介しています。特に、当研究所がNPOと共働で行っている人工海浜に関する生物調査の成果は、ダイバーが撮影した水中動画が上映されるなど好評です。近くにお越しの際は、ぜひ、お立ち寄りください。

さて、2020年はいよいよ東京オリンピック・パラリンピックの年となりました。近年、訪日外国人観光客数は右肩上がりですが、福岡市観光統計によると、2018年の外国人入国者数は309万人で、5年前の約2.6倍に増加しました。昨年6月にはG20財務大臣・中央銀行総裁会議、9月にはラグビーワールドカップの試合が行われ、来年

2021年には、FINA 世界水泳選手権2021福岡大会の開催が予定されており、今後も観光・MICE による交流人口の増加が見込まれています。このように、海外との交流が盛んになると、人の移動に伴うごみの増加や、今まさにこの原稿を執筆中に世界中で注目を集めている新型コロナウイルスなどの感染症のリスク拡大、テロに備えた健康危機管理が課題となってまいります。当研究所においても体制を強化するとともに、消防局と連携した訓練にも取り組んでいるところです。

一方、新たな環境問題として、海洋プラスチックや気候変動適応策が話題となっております。本市は、脊振山系の山々と博多湾に囲まれた自然豊かなコンパクトシティであり、博多湾は、市民のふれあいの場としても利用されています。博多湾のごみを無くすため、漁業者により海底ごみの回収が行われており、市民・企業、行政が協力して毎年実施されている「ラブアース・クリーンアップ」では、福岡市では約45000人の方が参加して、海岸や河川の清掃活動が行われています。これらの回収ごみについて、当研究所で組成調査を行ったところ、いずれの場合もプラスチック類、中でもタバコのフィルターや食品などの包装資材が多いことが分かりました。これらの結果を行政施策や市民啓発に役に立て、海洋プラスチック対策につなげていきたいと思っております。

また、気候変動適応に関連した取り組みとしては、地球温暖化に伴い増加が予想される熱中症を防ぐため、福岡市では、熱中症対策推進本部を立ち上げ、全庁的な取り組みを進めております。当研究所では、熱中症対策に活用できる科学的知見を得るため、熱中症救急搬送者や気象台の観測データ等を収集して、搬送状況と気象条件についての解析等の調査研究を行っているところです。

このような新たな環境問題に対しては、広域的な対応が必要であることから、これまで以上に各支部の地方環境研究所間の協力が必要になってくるのではないかと感じています。支部活動や全国環境研協議会の活動を通じて、皆様と協力して取り組んでいきたいと考えておりますので、今後ともご指導をよろしくお願いいたします。